

足利風 -ashikaga-fu

2017
2月号
Vol. 48



絵：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* 土祭(ひじさい)という試み *

“土祭(ひじさい)”とは、土の祭。益子という陶器の町なのだからというだけでなく、農業や林業など、すべてが“土”を通してつながっている、ということ。3年に一度、16日間の打ち上げ花火のようなイベントのためのイベントをやるのではなく、終了後にどのように“まちづくり”の取り組みを継続していくのかを考えた“土祭”なのだ。祭りの後に、地域づくりの新しい担い手を生み出すためのイベントなのだ。事務局づくりのはじめから、“土祭”が終わった後に何をするのかを考えている。260人の市民が、28グループに分かれて祭りを創りあげ、祭りの後は“土(ひじ)の輪”という、まちづくり組織として残った。



益子は、浜田庄司を代表とする陶工たちが、民芸運動の拠点として選んだ地。暮らしの中で使われてきた手仕事の日用品の中に“用の美”を見出し活用する“民芸運動”。その“民芸運動”のリーダーとして「手仕事の日本」などの著書で知られる柳 宗悦の心に残る言葉がある。～「無名の職人だからと言って、軽んじてはいけません。彼らは品物で勝負しているのです」「過去のものといえども、真に価値あるものは、常に新しさを含んでいる」「実に多くの職人たちは、その名を留めずに、この世を去っていきます。しかし、彼らが親切にこしらえた品物の中に、彼らがこの世に生きていた意味が宿ります」「名もなき職人が実用のためにつくり、庶民の日常生活の中で使われてきたものこそ美しい」「近代風な大都市から遠く離れた地方に、日本独特なものが多く残っているのを見出します。ある人はそういうものは時代に後れたもので、単に昔の名残に過ぎなく未来の日本を切り開いてゆくには役に立たないと考えるかも知れません。しかしそれらのものは、皆それぞれに伝統を持つものでありますから、もしそれらの物を失ったら、日本は日本の特色を持たなくなるでありますよ」・・・伝統と革新の間で、地域に脈々と流れるDNA(遺伝子)というものを、立ち止まり見つめ直す時代に私たちは生きているのだ。

(M生)

* まちの縁側「まちづくりの発想」 *

12月10日(土)二十数名の参加者で、丸山精一さんの名案内のもと、地域政策プランナーとして“まちづくり”という言葉在全国に広めた田村 明さんの名著「まちづくりの発想」(岩波新書)をもとに活発な意見交換が行われた。市民主体のまちづくりとは何か?という根源的な問いは、現在も尚、私たちの重い命題でありつづけている。地域づくりの動きは、これまでのような全国画一的な地域開発ではなく、自分たちの住み生活している場を再認識し、地域に合った住みやすい生き活きとした魅力あるライフスタイルを提案・実現してゆく場でなければならないのだ。魅力あるサロンとなった。

＊私と雛との出会い＊

～牛山 喜人～

45年ほど前から出張の多かった私は、何年間かで日本縦断してました。

一か所に一ヶ月程 滞在することが多かったのも、それなりに町にも馴染んでいました。

ある時、宿から仕事場に向け歩いていると、とある店先に陶器の雛がぼつんと飾られていました。その端正な顔立ち、愛らしい姿を見たとき、「買って帰ろう」と思い、店の中に入るとそこは 人形工房 でした。

店の人に「購入したい」と告げると、今は予約でいっぱいなので、3年後になるとの事！

「住所と名前を書いておいて」とメモ紙を渡されました。

それから3年ほどたった頃、「あなたの番がきたので、お金を振り込めば送ります」と手紙をいただき、早速送ると、やっと雛が送られてきました。

後で調べたところ、前後の型に粘土を詰め、型抜きをし、前後張り合わせて焼成し、胡粉と岩絵の具で色付けした郷土人形的一种 土人形でした。

北は青森から南は鹿児島まで日本全国各地で作られている郷土人形には、土人形の他桐



の鋸屑(おがくず)を生麩糊(しょうぶのり)で練って作った練物人形、和紙を張り合わせて型抜きした張子人形、木地人形(こけし等)などあり、そのそれぞれで内裏雛は作られています。その後、出張のたびに工房を訪ねて買い集めました。

なぜ雛だったのか…？ 私には戦時中に8カ月で亡くなった姉がいました。

母はこの短い間しか生を受けさせてあげられなかったことが申し訳なく、悲しくて、毎年 雛を飾っていました。女兄弟のいない私にとって雛は家族円満のお守りのように思っていました。私の買った雛を母に渡し、母は楽しそうに雛を飾っていました。

そしていつのまにか雛集めは私の趣味になり、今では100体を超える雛たちが、私と家内の楽しみになっています。

＊言語の教えっこ&アクティビティ 楽しみながら語学を習得＊

英会話スクールより気楽に英会話を習得したい・会話の実践する場がなく諦めていた日本人達。

日本語会話を教えてもらいたい・日本の友達を作りたい外国人労働者の方や留学生。それならお互いに教えあえば語学学習が叶うのでは？さらに楽しめるプランがあれば、友達作りも叶えられるはず！

それがWisteria English Communityを作ったきっかけです。会話の練習会、その他アクティビティ(お茶会、食事会、バス遠足)など月に1～2回の活動を予定しています。(曜日、時間、場所は都度変わります)現在の参加者は24名です。

連絡先: wisteria2016@gmail.com

代表 八周真鶴・Dilshad Rilwan

※12月号にて紹介した「足利手話サークルあざみ」の活動日を火曜と記載いたしましたが、木曜に訂正いたします。



① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★2月23日(木) 2:00pm～4:00pm

* 本 : 佐野藤右衛門「桜守のはなし」(講談社)

* 案内人: 鈴木光尚さん

* ひとこと : “日本全国を飛び回り、傷ついた桜の手当てをし、桜の新種を探す佐野さんは、「桜守」と呼ばれています。瀬戸内寂聴さんは佐野さんを評して、「桜に男の一生の夢と命をそそいだ桜守のつぶやきは、どの言葉にも深い愛と祈りと哲学に満たされている」・・・と、語っています”

★3月9日(木) 2:00pm～4:00pm

* 本 : 「物外軒雑記」

* 案内人: 長 太三さん

* ひとこと : “表千家不白流の名席「茶室物外軒」(市指定文化財)について学びます。「物外」の語義をはじめ、茶人長四郎三(号・白翁、物外軒。北猿田の回漕問屋「万屋」三代目)の人物像や万屋ゆかりの文化財などについて、案内人(著者)を囲んで、弥生の午後の一とときを、出会った皆さんと・・・。”

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 2月・3月のご案内 ～

- * 遠い日のふるさと展 (1月23日～2月 2日)
- * 「花地蔵」小林生子絵手紙展 (2月 6日～2月16日)
- * 全国郷土のひな人形展 (2月20日～3月 2日)
- * 東北震災6周年展 (3月 6日～3月16日)
- * 新島旭～足利スケッチ展 (3月21日～3月30日)

☆相談室 & 講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

“今年こそ痩せてみせる！”が、毎年の目標だ。しかし、なぜか体重は増加し続けている。
ダイエットに良いと、もち麦を混ぜたご飯食べ始めてはみたが、これが実に美味しい。つい
つい食が進んでしまうので、今年も目標達成は無理かもしれない。(しおぱん)